



高橋市長の政治姿勢について



橋本 真由美 議員
(清流会・かさいを育む会)

市長のハラスメント行為の 考え方、捉え方

問 市長への手紙について担当課は市の不備を認め、市長の暴言の理由が無くなったが、謝罪も撤回もないようなやり方で行政が信頼されると考えるのか。

答 (市長) 市長への手紙に回答がなければ、なぜ一言、返事が返ってこないのかと苦情を頂いていれば済んでいた話です。

市民の意見収集の方法

問 これからのタウンミーティングの在り方は。

答 各自治会やふるさと創造会議に対して市政の状況を伝え、地域課題や意見要望を聞く場として、区長を中心に各町二、三人の参加をお願いしており、今後も継続したいと考えています。

問 地区の若者や子育て世代の声も区長が拾わなければならないが、区長の負担の検討は。

答 自治会内における各団体をまとめ、自治会のことを1番御存じなのは区長であるという認識により今の形態で続けたいと考えています。

問 市長への手紙のルールは。どの程度のやり取りになるのか。

答 一度の回答で解決せず、納得がいけない場合は、再度視点を変えて新たな御意見を頂くなど、手紙のやり取りは一度に限定せず受付し、対応していきます。

問 市民に安心してもらえる市政の実現に向けて、どのように取り組むのか。

答 タウンミーティングや審議会、パブリックコメント、団体との意見交換、市長への手紙、窓口対応など様々な場を活用して市民の声を把握しようと努めています。様々な方法を組み合わせることにより、より多くの市民が参加しやすくなると考えます。

要望 本来のタウンミーティングに戻し、タウンミーティングはどの世代にも広く、できるだけ多くの方に来てもらい、市民の生の声を直接聞いて、しっかり未来を見据え市民のために市政を進めていただきたい。

■その他の質問事項

- ・ ハラスメントへの取り組み方



市長の行政執行を問う ④



森田 博美 議員
(清流会・かさいを育む会)

問 市長から議会への申入れ書は、どのように協議され、どのような意図があるのか。副市長は内容を確認されたのか。

答 (副市長) 6月議会の質問の状況を踏まえ、議会での発言は可能な限り事実確認を行っていただき、建設的な議論に向けて配慮いただきたいとの趣旨で作成したものです。また、内容については確認しています。

問 申入れ書を作成するときに、市長の暴言については話が出たのか。暴言問題をこのまま放

置することがいいことなのかどうか協議はあったのか。

答 (副市長) 市長の発言に至る考えや認識については共有しており、今回の原因が何であるかも十分理解しています。ただ、伝え方については、もう少し穏やかな表現もあったのではないかと考えています。今後は市長と十分に協議しながら対応していきたいと思っています。

問 市長に猛省を求める決議案に反対した議員からも、けじめをつけるべき、謝罪を求めるべきという意見が出ている。間違いを正さなければ本当の解決にならない。反省して謝罪して撤回しないのか。

答 (市長) 原因があって結果があるわけで、原因を止めてからの話だと思っています。議員

の質問は公の場での非常に重たいものです。一度うわさが広がると私の信用失墜のみならず加西市の信用失墜にもなるので、もう少し慎重に質問いただきたいというのが私の本意です。ただ、少し言葉を荒げたことは反省していますと議長に伝え、議員の皆さんにも伝わったと思っています。そのお伝えしたとおりの内容です。

意見 そうであるならば素直になって謝つたらいい。どっちが先かという問題にすり替えていく市長の受け止め方や対応が事を荒立てているのは間違いない。暴言問題については、市長がやるべきけじめであり、どこかでけじめをつけるべきである。

■その他の質問事項

- ・ タウンミーティングについて
- ・ 監査委員の審査意見について